

## 「高等学校改革プラン推進委員会」への検討依頼事項

### 1 「魅力ある高等学校づくり」に関する事項

- ・連携型高校、ジョイント高校、中高一貫教育校、コミュニティ・スクールなどの設置可能性
- ・その他、報告書に記載のあるさまざまなアイデアを参考にした魅力づくり

### 2 最終報告書にある「総数の決定基準」に基づく県立高等学校の再編整備に関する事項

#### 【検討に当たっての大枠ルール】

#### (1) 学校数の目安

最終報告書にある総数決定基準に基づき、教育委員会定例会で決定した通学区ごとの学校数

通学区	現在の学校総数	再編整備後の全日制学校総数	多部制・単位制高校
第1	27校 (1)	21校 (1)	1校
第2	17校	15校	1校
第3	25校	22校	1校
第4	20校	17校	1校
総数	89校 (90校)	75校 (76校)	4校

(注)( )内は市立皐月高校、総数の( )は市立皐月高校を含んだ数

#### (2) 標準目標値としての1学年6学級

新たな学校を設置する場合は、1学年6学級規模で設置することが望ましいが、転換の基礎となる既設高校の規模や立地条件により柔軟に取り扱う。

#### (3) 下限規模としての1学年2学級

交通の利便性や立地条件等、特別な事情のある学校の場合にも、充実した青少年教育の保障の観点から、さまざまな方法を工夫して下限規模として1学年2学級を下回ることのないようにする。

#### 【その他の配慮すべき事項】

- ・人口動向
- ・学校選択の際の地域間移動
- ・地勢・地理的条件
- ・隣接の高校への距離

### 3 「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」の配置に関する事項

- ・各通学区にそれぞれ1校配置する。
- ・「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」は、既設の高校を転換して配置する。その際、通学圏域が広範囲となるよう配慮する。また、多部制・単位制高校の配置に当たっては、通学圏域内の定時制課程の適正配置について考慮する。

### 4 その他、上記に関連する事項

- ・地域教育プラットフォームや、地域からの学校支援のあり方など